

2019 年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像	1 自分を生かし、「社会の役に立つ人材」を育成する学校 2 厳しい時代を生き抜くための「生きる力」を身に付けられる学校 3 地域に根差し、地域に信頼され愛される学校
重点項目	重点目標
1 キャリア教育の充実	社会的・職業的自立に向け、生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。また、併設大学・短大との連携を強化する。
2 確かな学力の向上	わかる喜びと自信をもたせ、よりよく問題を解決する力を養うため、基礎学力や思考力・判断力など確かな学力の向上を図る。
3 人間関係作りの推進	温かい人間関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力の向上や居場所作りに努める。
4 特別活動の活性化	望ましい集団活動を通して個性の伸長及び自主的・実践的態度の育成のため、部活動や学校行事等の活性化を図る。
5 基本的生活習慣の確立	他者と協働できるよう、規範意識や自己管理能力を育むため、学校のルールを守り、社会のマナーを身につけさせる。
6 国際教育の推進	グローバル化が急速に進展する中、外国の人々の多様な価値観を認め共生できるよう異文化理解の活動を推進する。
7 情報教育の推進	社会の高度情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を育むため、情報活用能力の育成を図る
8 地域貢献活動の推進	奉仕の精神を涵養し、豊かな人間性や社会性を高め、達成感や自己肯定感を醸成するため、地域社会での奉仕活動や体験活動の推進を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第1学年	1 キャリア教育の充実 ・自己の興味、適正を知る ・職業や学校について理解する ・自己管理能力の育成	・キャリアの授業と学年が連携して目標を達成するよう計画的に指導に当たる。 ・自己管理能力を育成するために手帳を有効活用する。	B	・キャリアの年間計画と授業と学年の取組みの連携をとるようにしたが、計画的に進めることができなかった。授業と学年の取組み役割分担を明確にして計画的に進めると効果的だと感じた。 ・各教科の授業を工夫する取組みをしていた。 ・宿題を課たりして、家庭学習の習慣をつけることはあまりできなかった。 ・朝学習は、担任を中心に熱心にフォローして成果があがった。 ・生徒には、月1回授業の取組みについて自己評価をさせた。また、授業環境週間などの取組みをして、年間を通して学ぶ姿勢や環境づくりに取り組み成果がでた。
	2 確かな学力の向上 ・基礎・基本的な学力を育成する ・家庭学習の習慣をつける ・学びに向かう姿勢を育てる ・学ぶ環境をつくる	・授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように授業を工夫する。 ・生徒に無理のない範囲で宿題を課し、家庭学習の習慣を付ける。 ・「進路マップ」で成果が出るよう授業と連携して指導に当たる。 ・朝学習を通して、身だしなみと気持ちを整え、落ち着いて授業に向かう環境をつくる。 ・週1回、各教科の授業で宿題を課し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ・授業に向かう態度を、自己評価	C	

		<p>させることを通して、修正点を認識させて自ら改善するよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいで整理整頓された教室環境をつくり、生徒が落ち着いて学ぶ環境を整える。 		
	<p>3 人間関係づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい言葉遣いを身につける ・思いやりの気持ちを育てる ・いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュャーズキャンプなどの行事で協働することを通して望ましい人間関係を育てる。 ・相手を考えて正しい言葉遣いができるよう指導する。 ・生徒がいじめから身を守れるよう、HRで生徒を見守ることはもちろん、学年集会を通していじめにどのように対応するかを全体に周知する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや友人間トラブルが多く見られたが、学年集会やHRの時間を通していじめや思いやりの気持ちについて学年全体で取り組むことができた。 ・月1回の自己評価と担任評価を通して、生徒に修正点を自覚させることはできたが、自ら修正点を直すまでではできなかった。継続的に辛抱強く指導することが必要と感じる。
	<p>4 特別活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、委員会活動に積極的に参加させる。 	C	
	<p>5 基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナーを守る ・気持ちよいあいさつができる ・正しい身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒が安心して生活できるよう、規範意識、マナーについて意識させる。 ・身だしなみを、自己評価させることを通して、修正点を認識さ 	B	

		せて自ら改善するよう指導する。			
	6 国際教育の推進	・それぞれの教科で国際教育についてできることを検討し、授業で扱うよう依頼する。	C		・6～8については学年として取組みことができなかった。
	7 情報教育の推進	・情報の授業はもちろん、他教科の授業でも効果的に情報機器が利用できる環境を整備する。	C		
	8 地域貢献活動の推進		C		
第2学年	「将来に夢と希望を持ち、自己実現までの職業人生設計を自ら描ける力」を身に付けさせる。	LHRでのキャリア教育 進路ガイダンスの活用 オープンキャンパスやインターシップへの積極的参加	A	B	<p>入試が大きく変わる中、未だはつきりしない部分もある。生徒に明確な情報をいかに伝えるか。また、進路未定者への早期対応についても課題。</p> <p>朝学習や宿題は1年間実施することができ、昨年度よりも成績向上した生徒は増えたが、GTZのD3ランクにいる約半数の生徒への対応が課題。</p> <p>学年集会や修学旅行中の班別行動などは時間や規則をしっかりと守ることができたが、日頃の友人への心無い言動が見られることが課題。</p> <p>好文祭では、学年発表や台湾ブース</p>
	「自己実現の為の基礎学力、思考力・判断力・表現力などの確かな学力」を身に付けさせる。	朝学習(週3回)、宿題(週2回)の実施 検定試験(英検、漢検、GTEC等) 表現力トレーニング(ベネッセ) スタディサプリの活用	B		
	「人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ちながら協働できる力」を身に付けさせる。	グループワーク形式の授業やLHRを実施 修学旅行(台湾)での班別研修	B		

	「自分の考えを的確に発信し、他社の意見を傾聴できる能力」を身に付けさせる。	LHR でグループワークを活用したコミュニケーション力の向上 学校行事への積極的参加	A		<p>など多くの生徒が協力し調べ学習の成果を発揮してくれた。</p> <p>修学旅行での学校交流は大成功だったが、1年次に実施した英語コミュニケーションを実施できなかったことが課題。</p> <p>国体前の土浦市内清掃活動では積極的にごみを拾う姿が見られたが、校内美化推進活動などは部活動生しか参加できていないことが課題。</p>
	「外国人の多様な価値観を認め、異文化を理解し、共生社会を実現する力」を身に付けさせる。	総合学習時の国際教育（異文化理解、プレゼン形式の発表会） 定期的に教科をまたいだ教員との英語コミュニケーションを図る	A		
	「地域や社会に関心を持ち、自ら積極的に参画・貢献する力」を身に付けさせる。	国際教育の一環としての、自国・地域理解 校外美化推進活動への積極的参加	B		
第3学年	挨拶や適切な言葉遣い、正しい身だしなみを実践できる生徒を育てる。	・日常生活全般において指導を心がけ、教員が模範となる。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆書写技能検定ではたくさんの合格者を出すことができた。 ・各種検定を積極的に受験する生徒もおり、各教科の先生方の事前指導も可能な限り行われ資格取得への意識を持たせることができた。 ・基礎学習に取り組める時間をもっと確保したかった。 ・服装・頭髪検査の実施、身だしなみの指導等、学年の共通理解の行うことができたが、進路決定後に注意指導を繰り返し受ける生徒を出して
	表現力やコミュニケーション能力の高い生徒を育てる。	・総合的な学習の時間やLHRを利用し、学年職員が連携をとり、指導する。 ・休み時間や放課後などに積極的に声をかけ、教員からコミュニケーションをとる。	B		
	資格の取得を目指し努力する生徒を育てる。	・硬筆書写技能検定の4級取得を目指し指導する。	A		

	自分の将来を考えて行動し、希望の進路を実現できる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標を持つことの大切さを理解させ、自分の夢や目標について考えさせる。 ・生徒全員に夢や目標を明記させ、その夢を実現させるために、現在あるべき姿や行動について進路ガイダンス等を通じて考えさせる。 	B		<p>しまった。徹底した指導の難しさを感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を心がけたが、個別の対応に慣れた生徒が、全体への一斉指導に対しては反応が鈍くなる印象があった。
教務部	授業時間を確保し、規律ある授業の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事予定の見直し、行事の精選を図り授業時間の確保をする。 ・チャイムでの授業開始、終了を徹底する。 ・規律ある態度で授業を受けられるようにする。 	B	A	<p>行事や行事に伴う振替休日等で、曜日により授業時数の偏りがでてしまった。次年度は曜日変更等でできるだけ対応したいと思う。チャイムでの授業開始は、ほぼできていたように思える。</p> <p>手帳での自己管理も予想以上にできていた。研究授業を実施し、AL 中心の授業展開も進んでいる。次年度も継続したいと考えている。</p> <p>令和2年度開始のアドバンススクールのねらいについてはある程度浸透してきたと思われる。今後、評価方法について検討をかさね、令和4年度に対応できるようにしたい。</p>
	PDCA サイクルを確立し、自己管理能力の育成・向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳に記入する習慣を心がけさせ、計画・実行・評価・改善を意識した生活習慣を意識させる。 	A		
	新学習指導要領を念頭においた、評価及び教育課程の検討。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科と連携し、新学習指導要領を意識したカリキュラム編成を検討する。 ・新学習指導要領を意識したうえでの成績の評価方法を検討する。 	A		

	<p>キャリアを意識し、「自分らしい生き方」を目指せるようなコース編成を検討。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア特別進学コース」、「キャリア探究進学コース」それぞれのコースについてのねらいを明確にし共通理解を図る。 ・アドバンスエリアについてのねらいを明確にし共通理解を図る。また、評価方法についても検討する。 	B		
	<p>教員の授業力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、アクティブラーニングを意識した授業の研修および授業力向上に心がける。 	A		
進路指導部	<p>生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ必要な基盤となる能力や態度の育成。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探求の時間では、キャリアデザインと称して、生徒一人ひとりの自分の将来について考える，教育プログラムを実施。 ・1，2年生では学習手帳を遣い，PDCAサイクルの習慣化を身につけさせる。 ・進路ガイダンスや職業理解ガイダンスなどの適宜実施。 ・併設の幼稚園・保育園実習，外部機関主催の看護体験やインターンシップなどの参加へを促す。 ・併設大学や短期大学との連携を密に 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・教科「キャリアデザイン」は本年度から実施された。概ね、生徒一人ひとりは自分の将来について考えることができた。本教科は、次年度・次々年度と継続して、計画的に取組を進めて、内容をより充実したものになりたい。 ・インターンシップや職業理解ガイダンスなど積極的な取り組みが見られた。1日看護体験，幼稚園・保育園の実習，医療系ガイダンスなど参加する生徒が増加の傾向にある。次年度は更に積極的な取組ができるよう

		し、医療分野・保育分野に興味を持つ生徒の育成を図る。		B	<p>に計画したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、併設大学・短期大学との連絡協議会を数回おこない、連携がより密になった。次年度はアドバンスエリアの実施に向けて、より綿密に計画を進めていきたい ・生徒一人ひとりの能力の開発と自学自習の定着化については、各学年とも朝学習に取り組むなど工夫をしているが、学習到達の目標である、学習到達度 D ゾーンから C ゾーンへの学力向上については達成できなかった。次年度は更に検討をしていきたい。
	生徒一人ひとりの能力の開発と自学自習の定着化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己学力の分析と学習到達目標の設定。 ・模試での成績の自己分析や次のテストへ向け課題設定を行い、学力向上を図る。 ・数値的目標としては、模試の学習到達度 D ゾーンから C ゾーンへ到達する学力向上を重点課題とする。 ・ 実用英語技能検定、日本漢字能力検定、実用数学技能検定受験などの資格・検定試験受験の啓発に努める。 	B		
生徒指導部	基本的な生活習慣の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な服装髪型検査の実施。 ・担当職員による定期的な校門指導の実施等を通し意識付を図る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報安全・交通安全・薬物濫用防止にかかる啓発講話は全て実施出来たが、特にスマートフォンを使った SNS の適切な利用と交通安全についての意識啓発については、より実効性のあるものを実施出来るよう検討が必要と考える。 ・基本的な生活習慣の指導については、
	情報安全に関わる指導	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話・スマートフォンの適切な利用方法と SNS 利用時の危険性についての指導を行い、利用マナーの啓発し、関連する問題行動の撲滅を図る。 	B		

	交通安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路における定期的立哨指導。 (月1回・2週にわたり実施。) ・交通安全講話の実施。 ・通学用自転車の安全点検確認。 	B		<p>服装指導（特に一部の特定女子生徒の指導徹底）に苦慮する傾向が顕著であった。</p> <p>如何に早期の指導徹底が図れるかについて検討し対応が必須と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止指導は、状況の把握については一定の効果が見られるものの、生徒間の微妙な交友関係や個人の意識の違いによる行為の認識に乖離がみられ指導の難しさがあった。今後、当事者がどのように感じるかは勿論、行為そのものが客観的にどの様に判断されるかについても指導し、個々の生徒の認識を高めることでいじめ根絶に取り組みたいと考える。
	薬物乱用防止指導	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止講話の実施。 (薬物乱用の危険性について認識を高める) 	A		
	いじめ防止に関わる指導	<p>いじめに関するアンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会・HRにおいて『いじめ』の定義について再確認と、他者に対する思いやりの醸成を図る。 	B		

渉外部	保護者と教師の連携強化を図り、本校教育活動の理解及び発展を目指す。	<p>PTA 活動を通じ、保護者との情報交換を積極的に行い、各活動に対する共通理解を図る。</p> <p>PTA 活動における改善点や問題点に対して保護者との意見交換を積極的に行い、対応を図る。</p>	A	<p>A</p> <p>支部長制、顧問を廃止するにあたり、会則の改正を行うこととなった。2月の評議員会にて議事に挙げたところ、積極的な意見をいただき、情報交換もでき、充実した会議となった。この会議を活かし、次年度総会にて審議したいと思う</p> <p>好文祭、研修旅行など、より一層盛り上げたいと思う。</p>
特別活動	部活動を奨励し、規律活力ある学校を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介や部活動見学期間を設け、生徒に対して部活動への加入を勧める。 	C	<p>C</p> <p>国体開催に関連して全校クリーンアップ作戦を実施し、地域貢献という観点では評価したい。当活動は次年度も継続して行い、地域貢献はもちろん、生徒の美化環境の意識向上につなげたい。しかし、この新たな試み以外は大きな変化を起こせず、反省点が多い。この反省を次年度に活かす意味で本年度の全体評価は「C」とした。</p> <p>次年度は、部活動紹介からその内容を見直し、さらにクラスマッチの競技種目の一部変更、生徒総会の再開や聖火ランナー応援イベントの実施など</p>
学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してより良い学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を精選し、生徒会(各委員会含む)を中心に生徒一人ひとりが自主的に取り組めるよう企画を工夫する。 	B		
人間と環境とのかかわりについての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化の一環として学校内外の清掃活動やペットボトルキャップリサイクル運動を行う。 	C		
運動に親しむ態度の育成、集団の中での責任感や連帯感の涵養を図る。	<ul style="list-style-type: none"> クラスマッチにおける競技種目やルール等を工夫しつつ、各委員会との連携を図りながら行う。 	C		

	個性を伸ばし、自主性、創造性を高めるとともに、成就感や連帯感を味わい、責任感と協力の態度を養う。	・生徒会(各委員会含む)を中心に文化祭における各企画等を工夫し、生徒が協力して行えるようにする。	C		「従来通り」ではなく、新しい変化を起こし、一人でも多くの生徒の成長を図る。その為にも、生徒たちが自ら主張できる、自ら行動できる環境(生徒会や委員会等)を生徒総会までに確立する。
	本物の文化や芸術に直接触れることを通して情操を高め、豊かな教養を育成する。	・芸術鑑賞会を通して、様々な芸術に対する知識や教養を身に付ける。	B		
保健厚生部	校舎内外の清掃活動を充実させ、学習環境の一層の美化を目指す。	・教室や分担区域の清掃をきちんとさせる。また、ごみの分別や、回収場所の美化にも気を配らせ、衛生的な学習環境を保たせる。	B	B	<p>ごみ回収場所が散乱していることがあり、時々整頓や清掃をした。</p> <p>職員室の冷蔵庫内にあった期限切れの品を大量に処分した。改めて、私物には記名をし管理をお願いした。</p> <p>教室棟のトイレ掃除を年度途中(11月)から、各クラス輪番で行った。次年度も実施する場合は、担当クラスを固定した方が生徒・監督教員ともにやりやすいのではないかと思われた。</p> <p>観葉植物への水やりを1月から美化委員が行うこととなった。次年度以降も実施の予定である。</p> <p>11月の避難訓練は消防の方々を迎えて実施した。次年度以降も実演を願います</p>

					<p>る予定である。</p> <p>奨学金については、担当者を中心に遺漏無く対応出来た。</p>
教育相談部	教育相談の円滑な運用を図り生徒の自己理解を促し、建設的な変化(成長)を支援する。	不登校や友人関係など、学校生活に大きな不安や緊張を感じている生徒や、青年期の発達課題に直面し悩みを抱えている生徒に対し、彼らを取り巻く担任、学年、保護者、カウンセラーとの連絡・調整を図り、その生徒の抱える悩みや困難を解決する援助を行う。	A	A	<p>本年度の教育相談室利用者は2月27日現在で16名(延べ回数107回)である。また、カウンセリング利用は28名(延べ回数154回)である。昨年との比較ではどちらの利用も減少している。なお、長期にわたる利用生徒が数名いたが、担任・学年主任・相談部・スクールカウンセラー間の情報交換等はスムーズに行われていた。ただし、相談室利用時間での学習のサポート面ではきめ細やかな指導までは難しかった。</p> <p>また、職員研修では外部講師(石田隆夫氏)の講演により、本校の現状に則した実践的な研修ができあと考えられる。</p>
		相談室利用生徒の学習の滞りを防ぐため、各教科担当の教師と学習内容の確認作業を行い、生徒の自学的学習をサポートすることで、生徒の学習意欲を促す。	B		
		職員研修を企画し実施することにより、教員のカウンセリングマインドの能力の向上の機会とする。	A		